

校名：神戸大学附属特別支援学校

所在地：〒674-0051 明石市大久保町大窪 2752-4

電話番号：078-936-5683

記載日：2016年 5月20日

記載者：大宮 とも子

記載者役職：副校長

本校の校風、特色



子どもたちの要求や願いを育み、人格を豊かに形成していく教育実践を目指しています。

一つには、子どもたちの思いに教師が丁寧に寄り添って、やりとりを豊かに展開し、子どもたち一人ひとりが主体的に「わかってできる」能力を発揮し、仲間とつながり合うことが出来る取り組みを進めています。

ふたつには、子どもたちが楽しいと思えるような「手応えと達成感」のある活動を準備し、みんなが共

有できる文化を創造していくことを教師が子どもたちと一緒に作っています。それ故、学校では、子どもたちの感情が豊かに表現され、教師と子どもたちの歓声や笑い声が絶えない「明るくゆったりとした雰囲気」の学校です。

卒業生の活動状況

1962年より卒業生を地域に送り出しています。卒業生には『ふよう会』という同窓会組織があり、『ふよう会役員会』が中心となって、年に2回「春のつどい」「夏のつどい」という同窓会を実施しています。『ふよう会役員会』の会長は昨年還暦をむかえ、「春のつどい」ではみんなから盛大に祝福されました。「夏のつどい」では卒業生をはじめ、卒業生の保護者、卒業生が通う事業所、旧教職員、PTAとたくさんの方々が集まり交流を深めています。同窓会に参加された卒業生とその保護者には、近況や悩みなどをアンケートで応えてもらったり、聞き取ったりしています。参加できなかった方にもハガキで近況を伝えてもらい、卒業生の状況把握を大切にしています。



本校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活動状況

教員たちの日常的なつながり、研究会参加などで情報交換をしています。

コミュニケーション的関係を切り拓く力を ゆたかな人格の形成をめざして

2 大行事

運動会と学習発表会は学校の2大行事です



10月 運動会

運動会では、学部の種目だけでなく、小学部・中学部・高等部の縦割り集団ブロック集団)による演技も行います。多様な集団編成による育ちあいをめざしています。

2月 学習発表会

学部ごとに演技を行います。合唱・合奏だけでなく、劇づくりにとりくんでいます。PTA演技、教員の演技もあり、参加者みんなでつくりあげる行事です。

授業づくり

教科学習を大切に教育課程を編成しています。手作り教材が多く、教師の専門性を生かし、教材・教具を工夫しています。



季節ごとの行事、校外学習



食育にも力を入れています。
給食の白米は神戸大学農学部
の食資源センターから配達を
していただいています。学校
で精米し、炊きたてのご飯が
給食にです。



このお弁当も給食です。
「青空給食」は給食で作ってもらったお弁
当を持って出かけます。青空の下で、お弁
当も空気もおいしい！

附属学校間交流

本校小学部児童と附属小学校2年生との交流
を毎年行っています。交流会は附属小学校の児
童が内容を考え、司会もしてくれます。



親子幼児教室「たんぽぽ教室」

就学前の幼児を対象にして、親子での教室を月一回実施
しています。就学前の障害のある子どもと兄弟もやってき
て、いつも大賑わいです。子育てに悩む保護者が集まって
交流ができるので「安心できる場」となっているようです。
親子あそびの後は、懇談会を持っています。子育ての悩み
や就学に向けての迷いなど、地域では相談しづらい事柄も
素直に出し合うことができ、教師と保護者がともに学びあ
う場になっています。学校が行う親子教室なので、就学に
関する相談は多く、学校生活のイメージが持ちやすくなっ
ているようです。



ふよう会（同窓会）

夏は、卒業生とその保護者を全教員で迎え、PTAの協力もあり
ます。ゲームあり、喫茶あり、イベントあり、事業所の販売あり
と、みんなで楽しめる企画を考えています。卒業生保護者の有志
の会のコーヒーゼリーは、定番人気のロングセラーです。参加卒
業生の最年長の方は60歳を超えています。保護者同士も今の悩み
や懐かしもあり、話の輪があちこちでできますし、教員との話も
懐かしさあり、互いに今の状況を知り合う場となっています。

地域における存在

- ① 教育相談のとりくみ（随時）
- ② 就学前親子教室（たんぼぼ教室）のとりくみ（毎月1回）
- ③ 地域の施設職員との懇談会
- ④ 特別支援教育実践シリーズの取り組み（年2回）

1回目は、リボン付きボールと長縄ダンス

2回目は、ひらひら布球と、集団長縄ダンス

など、地域において障害児教育を進める拠点として位置付いている。



地域の福祉関係者を招いての
進路相談会

附属学校の存在意義、本校の存在意義

教育の原点

子どもたちの人格形成を目指し、人間として大切な内面の育ちや、人への信頼や仲間と共に文化を享受する楽しさを育むという、教育の原点を大切にしたい学校としての存在意義は大きいでしょう。教育実習、臨床実習、介護等体験を通しての学生の学びの場、指導について迷ったり、悩んでいる現場の教員の学びの場としても位置付いています。本校の研究会には全国からたくさんの参加者があります。

子どもと教師と一緒に育ちあう教育実践

また、教員同士が、自分の実践について語り、悩みを出し合いながら、集団検討を大切にして、研究実践を継続しているので、教師が自分自身の人間観や発達観・教育観・教材観・学校観…など、いろいろな観を問い直しながら、自由な実践ができます。そこでは、子どもと教師と一緒に育ち合う教育実践ができるので、若い教員がじっくりと学んで研究実践をしていく組織体制が確立していることも大きな意味があります。

地域への発信

年に2回特別支援教育実践シリーズを実施しています。明石市内の幼保・小・中の学校に市の教育委員会からも案内を送付してもらい、参加を呼び掛けています。子ども理解もさることながら、どんな教材でどんな内容を取り組めばいいのかわからず、授業の教材のヒントを得たいという要求が高いことが参加者のニーズから伺えます。参加者は、本校で取り組んでいる教材を実際に実技で使って体感して、その楽しさや面白さを味わって、実際に子どもたちと取り組んでいる方も多くおられます。取り組んだ時の映像を持ってきてくれる教員もいて、期待度がわかりますし、リピーターが多く、リピーターが誰かを誘って2回目も参加しているのも特徴です。そうした、実践の悩みやヒントに応えてくれるという本校の学校の捉えがあるようです。

発達障害の理解ととりくみ

また、地域にも、いじめや虐待など自己否定観を持っている発達障害の子どもたちが増えていますが、「本校に預けると大丈夫だ」と入学を進める教員も多く、小学部の高学年・中学部・高等部へのそうした入試学者が少なくありません。

こうしたことから、本校の教育は、子どもたちの人格形成にとって大切な子どもの願いや要求を育み、人への信頼や仲間と共に学ぶ喜びや文化を楽しむ土台となることを育ててもらえる学校であると位置づいていると思います。